



十和田市立中央病院

病院ニュース さわらび

平成 29 年新春号



新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、それぞれ年間目標を設定したり抱負を胸に収めたことと思います。

昨年の暮れは面白かったですね。個人的には大変興奮しました。サッカーのクラブワールドカップでの鹿島アントラーズの予想を超えた大活躍のことです。決勝戦では、世界の強豪レアル・マドリードを後半逆転して敵をビビらせました。その中心となったのが東北出身の小笠原と柴崎でした。野辺地出身の我らが柴崎は、連係プレーから 2 本のシュートでネットを揺らしました。その鋭い状況判断と身体の切れは見事でした。

頭にウルトラが付くような鹿島の善戦の評価については、内外のメディアでやかましく論じられています。共通しているのは、鹿島の衰えない運動量と飽くなき勝利への執念、気迫によるものとする評価です。それはそれとして、サッカーに限らずチームプレーの基本は、選手相互のコミュニケーション、連携を良くし、弱い部分のカバーリングを徹底して、攻めと守りのバランスを保つことに尽きます。あとは戦術になります。この基本が鹿島というチームに見事に浸透していただけたことだと思っています。

翻って、病院の仕事を考えてみますと、病院は一つのチームだとよく言われます。また、全体がチームとして機能している病院は強いとも言われます。職員間の連携が良くて、一人ひとりのフットワークが良い病院のことを指しているのでしょう。

具体的なデータはありませんが、最近では、当院でも職員間のコミュニケーションが少しずつではありますが良くなってきました。感覚的ではありますが、院内の風通しがよくなってきているように感じます。地味ではありますが、院長の戦略が少しずつ浸透してきているのだと理解しています。

昨秋の病院機能評価受審で、中間報告ではありますが高い評価をいただいたのを弾みにして、当院もさらにチームワークの良い病院に脱皮して行きましょう。



十和田市立中央病院
病院事業管理者
まつの せいき
松野 正紀

